

まほろば健康パークにおけるインクルーシブ機能検討委員会 (第1回委員会資料)

先進事例とまほろば健康パークの現状

令和6年2月6日

奈良県 地域デザイン推進局
公園緑地課

目次

■先進事例とまほろば健康パークの現状

(1) 先進事例

1) インクルーシブの定義・考え方

2) 先進事例

(2) まほろば健康パークの現状

1) まほろば健康パークへのアクセス

2) まほろば健康パーク利用者の来園範囲

3) まほろば健康パーク来園範囲内の類似施設

4) まほろば健康パークの利用者層

5) 障がい者団体へのヒアリング結果

6) 既存公園区域内にある施設と利用者数

7) 拡張予定区域の現状

8) 上位計画におけるまほろば健康パークの位置づけ

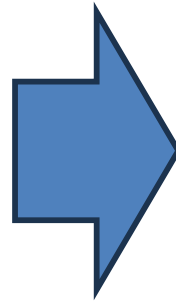
(3) 現状整理と審議項目

(2) 先進事例

1) インクルーシブの定義・考え方

◆ インクルーシブとは、「あらゆる人が孤立したり、排除されたりしないよう援護し、社会の構成員として包み、支え合う」という理念である。

- インクルーシブ (inclusive) とは、日本語では、「包み込むような／包摂的な」という意味となる。
- インクルーシブは、「ソーシャル・インクルージョン」(社会的包摂)という言葉から来ており、これは「あらゆる人が孤立したり、排除されたりしないよう援護し、社会の構成員として包み、支え合う」という社会政策の理念を表している。



【公園におけるインクルーシブとは…】

- ・わが国では、都市公園の移動等円滑化整備ガイドラインやバリアフリー新法のような法制度は整備されているが、インクルーシブに関する法制度は整備されていない。
- ・自治体や企業単位でインクルーシブの概念を取り入れた遊び場や遊具の導入が進み、公園が整備されてきた
- ・インクルーシブによる施設や遊具の整備は、全国の自治体で現在広く取り組まれている。

※2006年12月に国連で採択された障害者権利条約の第24条には、誰でも「生涯にわたって」「地域社会のなかで」インクルーシブ教育を受ける権利が明記されている。

(2) 先進事例

1) インクルーシブの定義・考え方

◆ インクルーシブ機能を有する公園とは、障害の有無などを問わずあらゆる人が自分の力を発揮しながら様々な人達と共に遊び学べる場所。

【インクルーシブ公園の主要要素】

「誰でも同じ遊びを楽しめる」

「感覚を使って楽しめる」

「自分にあった遊びを楽しめる」

「落ち着ける場所がある」

「繋がりを楽しめる」

資料：株式会社コトブキホームページ
<https://townscape.kotobuki.co.jp/inclusive/about/>

遊び場のユニバーサルデザイン5原則

①アクセシビリティ：

- ・誰もが公平にアクセスでき、最大限に自立して遊びに参加できるよう、物理的環境を整える。

②選択肢：

- ・誰もが自分の好きな遊びを見つけ、さまざまな力を伸ばせるよう、多彩な遊び要素とチャレンジの機会を提供する。

③インクルージョン：

- ・誰もが対等に遊びに参加し関わることで相互理解が深まるよう、インクルーシブな環境をつくる。

④安心・安全：

- ・誰もが重大な危険にさらされることなくのびのびと遊べるよう、細やかな配慮と工夫を凝らす。

⑤楽しさ！：

- 誰もがワクワクしながら自らの世界を大きく広げられるよう、遊びの価値の高い環境をめざす。

資料：ユニバーサルデザインによる公園の遊び場づくりガイド（みーんなの公園プロジェクト編著）

(2) 先進事例

2) 先進事例

- ◆ 「誰でも同じ遊びを楽しめる」「自分にあった遊びを楽しめる」などインクルーシブ公園の主要要素を含む先進事例を紹介する。

○海外の事例ー1 アメリカ パロアルト

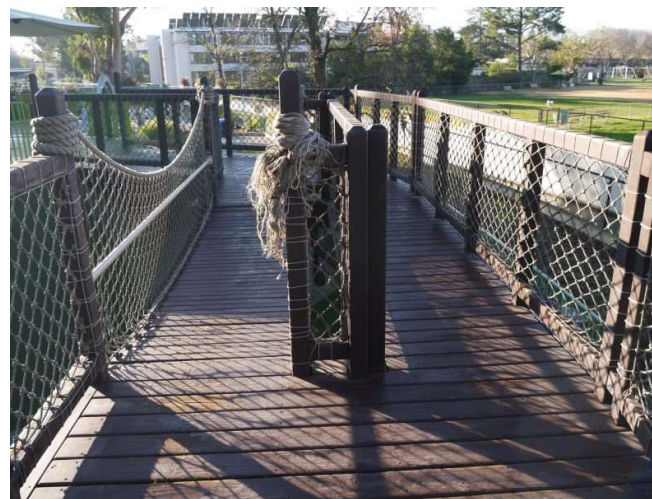
「マジカル・ブリッジ・プレイグラウンド」

- ・ 地域社会の多様な人々を歓迎できる真のインクルーシブな遊び場を目指して整備。
- ・ 規模も大きく、公共施設やカフェ等も併設。



「誰でも同じ遊びを楽しめる」

- ・ 車いすユーザーなど滑り降りた後にすぐ立ち上がった移動が難しい子どもが、一旦横にスライドして腰掛けていられるデッキ



「自分にあった遊びを楽しめる」

- ・ 右はそのまま平坦な通路、左は吊り橋ルート。それぞれ好きな渡り方で楽しめる。

(2) 先進事例

2) 先進事例

○海外の事例ー2 アメリカ シアトル

「サーモン・ベイ・スクール」

- ・ 自閉スペクトラム症の子どものニーズを踏まえて2012年につくられた遊び場



「落ち着ける場所がある」

- ・ 5本の「根っこ」には、遊び場を緩やかに区切る役割がある。この区切りにより、発達障害のある子どもにとって個々の遊び活動に集中できる。



「自分にあつた遊びを楽しめる」

- ・ 発達障害を持つ子どもの中には、数学や芸術など特定の分野に優れた才能を発揮する子どももいる。数学の得意な子どものために趣向も凝らしている（マスは「奇数が緑、偶数が青、素数が紫」に塗り分けられている）。

○海外の事例ー3 アメリカ

カリフォルニア

「ロータリー・プレイガーデン」

- ・ カリフォルニア州は、アメリカでもっともUD公園づくりが盛んな地域の一つ。



「感覚を使って楽しめる」

- ・ 右の一番高いテーブルの縁にあるボタンを押すと、イモリのオブジェ付きの球体から水が流れる。
- ・ 視覚に障害のある子どもも触って認識できる多種多様な魚のレリーフで彩られた壁がある。

(2) 先進事例

2) 先進事例

○国内の事例ー 1 世田谷区立二子玉川公園 遊具の広場 [東京都世田谷区 約6.3ha 地区公園]

- ・砂場や水遊び場など、ユニバーサルデザインによる施設が整備されている。



「誰でも同じ遊びを楽しめる」

- ・レイズド水遊び場：砂場同様、車いすに乗ったまま水の感触を楽しむことができる



「誰でも同じ遊びを楽しめる」

- ・ジャブジャブ池 車いすでも入ることができる。



「誰でも同じ遊びを楽しめる」

- ・ゴムチップ系舗装の築山：這って登ったりすることができる。

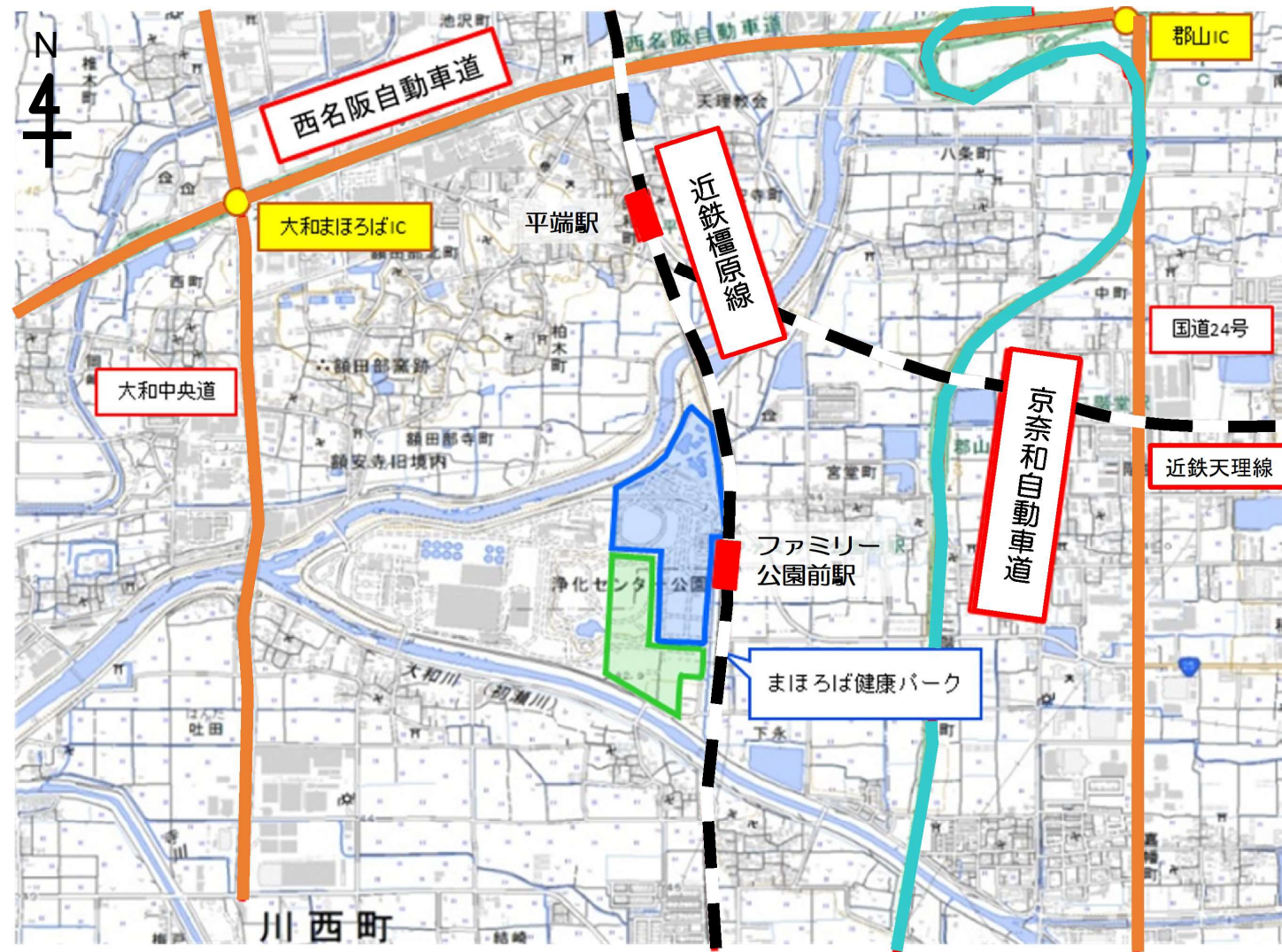
資料：「だれもが遊べる児童遊具広場」整備のガイドライン
(東京都建設局公園緑地部公園建設課)

(2)まほろば健康パークの現状

1)まほろば健康パークへのアクセス(広域)

◆ 本公園は奈良県中央に位置し、県内各地域から道路や鉄道等でのアクセス性に優れている。

まほろば健康パークへの広域アクセス



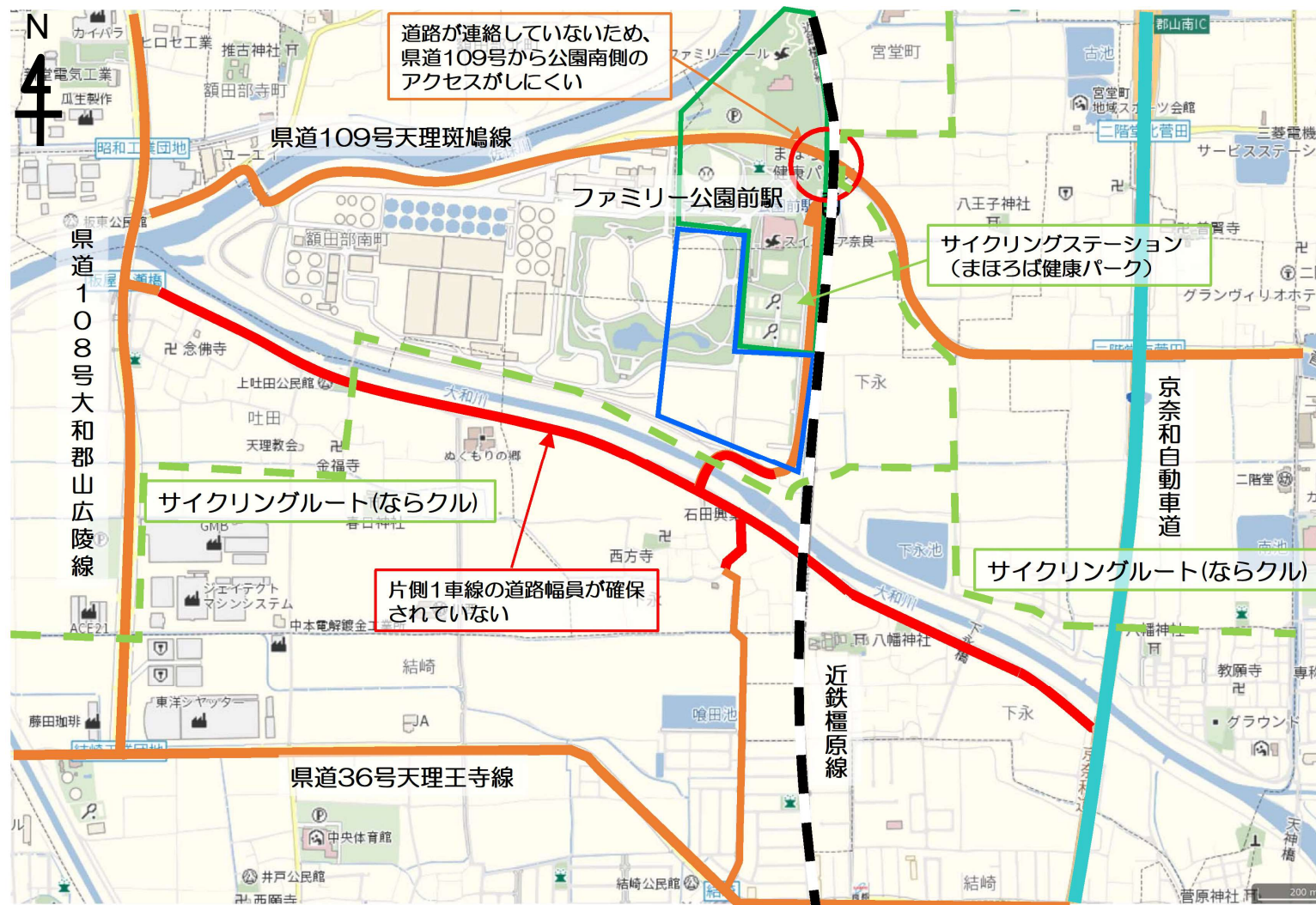
- 自家用車利用率: 78.7%
まほろば健康パーク利用者アンケート調査(令和2年)
- 駐車可能台数: 550台
- 駐車料金: 無料

■ 現在の公園区域
■ 拡張区域

(2)まほろば健康パークの現状

1)まほろば健康パークへのアクセス(近距離)

- ◆ 自動車は、敷地北側の県道109号天理斑鳩線から既存駐車場へアクセスしやすいが、公園南側からのアクセスはしにくい。
- ◆ 歩行者は、周辺又は近鉄ファミリー公園前から、自転車はサイクリングルート（ならクル）からのアクセスとなる。



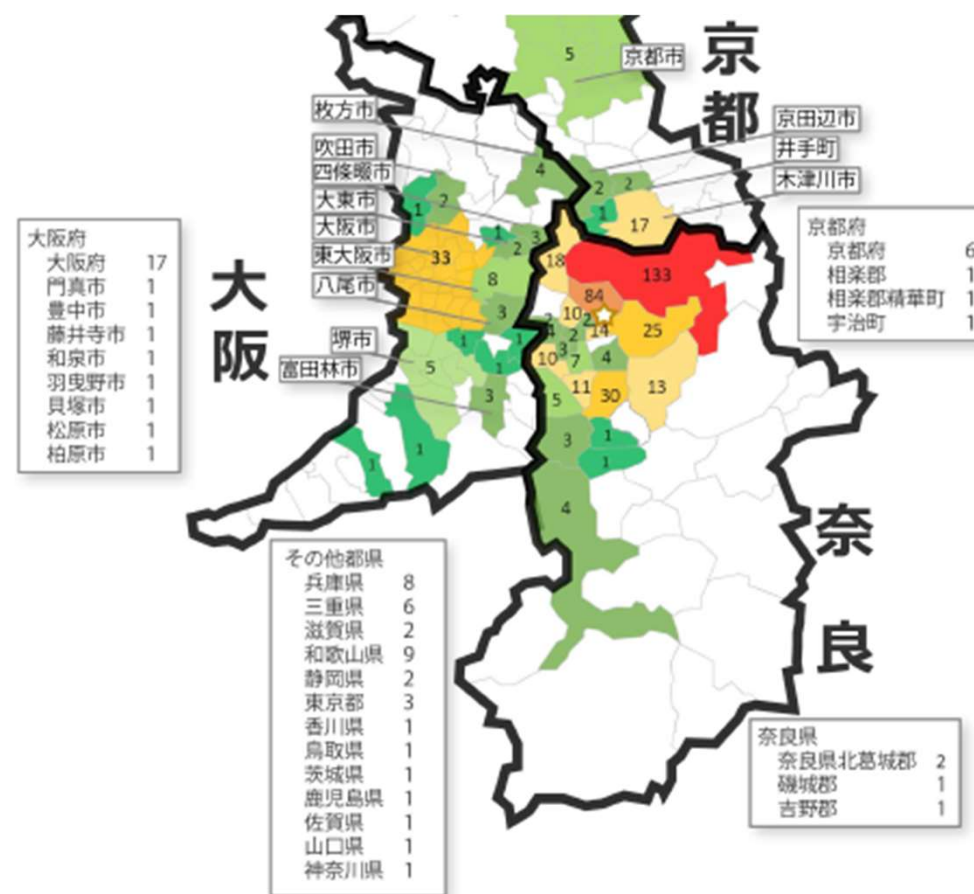
(2)まほろば健康パークの現状

2)まほろば健康パーク利用者の来園範囲

◆ 本公園の利用者は、奈良市、大和郡山市をはじめ、橿原市、天理市などの県内、大阪市、木津川市など他府県からも来園している。

まほろば健康パークの利用圏域
(上位20位まで記載)

1	奈良市	133	24.3%
2	大和郡山市内	84	15.3%
3	大阪府大阪市	33	6.0%
4	橿原市	30	5.5%
5	天理市	25	4.6%
6	生駒市	18	3.3%
7	京都府木津川市	17	3.1%
8	大阪府	17	3.1%
9	磯城郡川西町	14	2.6%
10	桜井市	13	2.4%
11	大和高田市	11	2.0%
12	香芝市	10	1.8%
13	生駒郡斑鳩町	10	1.8%
14	大阪府東大阪市	8	1.5%
15	北葛城郡広陵町	7	1.3%
16	京都府	6	1.1%
17	葛城市	5	0.9%
18	大阪府堺市	5	0.9%
19	京都府京都市	5	0.9%
20	磯城郡田原本町	4	0.7%
	その他	93	17.0%
	合計	548	100.0%



資料:ファミリープール・ヒアリングアンケート調査結果(お住まい)

(2)まほろば健康パークの現状

3)まほろば健康パーク来園範囲内の類似施設(国営・県営都市公園)

◆ 本公園における利用圏域内には、10ha以上の面積を有する類似施設として、大洲池公園、橿原公苑などが点在している。

類似施設（約10ha以上の奈良県内の国営・県営都市公園）の分布状況

公園名	所在地	供用面積(ha)	主なテーマ
奈良公園	奈良市	511.3	歴史、自然環境
県営平城宮跡歴史公園	奈良市	8.1	歴史、自然環境
大洲池公園	奈良市	23.5	自然環境、スポーツ
大和民俗公園	大和郡山市	22.6	歴史、自然環境
まほろば健康パーク	大和郡山市、川西町	11.8	スポーツ、環境保全
橿原公苑	橿原市	10.2	スポーツ
馬見丘陵公園	広陵町、河合町	56.2	花、自然環境
竜田公園	斑鳩町	14.0	景観保全
県営うだ・アニマルパーク	宇陀市	8.2	動物愛護
国営飛鳥・平城宮跡歴史公園	奈良市	31.8	歴史、自然環境
同 飛鳥区域	明日香村	59.9	歴史、自然環境

資料:まほろば健康パーク機能強化基本計画(令和4年3月 奈良県)



(2)まほろば健康パークの現状

3)まほろば健康パーク来園範囲内の類似施設(市・町管理の公園、民間施設)

◆ 本公園における利用圏域内には、市・町や民間事業者が整備している各種遊び場を有する施設がある。

類似施設（各種遊び場を有する施設）の分布状況

施設名	所在地	施設概要
ゆめのくに新大宮	奈良市	室内遊び場
ニンジャパーク奈良店(ミ・ナラ)	奈良市	室内遊び場
ラウンドワンスタジアム 奈良ミ・ナラ店	奈良市	室内遊び場
竹取公園	広陵町	公園
奈良わんぱくランド はしゃきっず	天理市	室内遊び場
天理駅前広場コフン	天理市	駅前広場
キッズランド US 奈良香芝店	香芝市	室内遊び場
ひみっこぱーく	桜井市	室内遊び場
モーリーファンタジー 桜井店	桜井市	室内遊び場
二上山ふるさと公園	葛城市	公園
葛城山麓公園	葛城市	公園
モーリーファンタジー 大和郡山店	大和郡山市	室内遊び場
橿原市立こども科学館	橿原市	科学館
香久山公園	橿原市	公園
モーリーファンタジー 橿原店	橿原市	室内遊び場
アミパラ 橿原店	橿原市	室内遊び場
生駒山上遊園地(ITADAKI)	生駒市	遊園地
生駒山麓公園・フィールドアスレチック	生駒市	公園
モーリーファンタジー 登美ヶ丘店	生駒市	室内遊び場
農業公園信貴山のどか村	三郷町	公園

資料:HP等から類似施設を調査(奈良県公園緑地課)

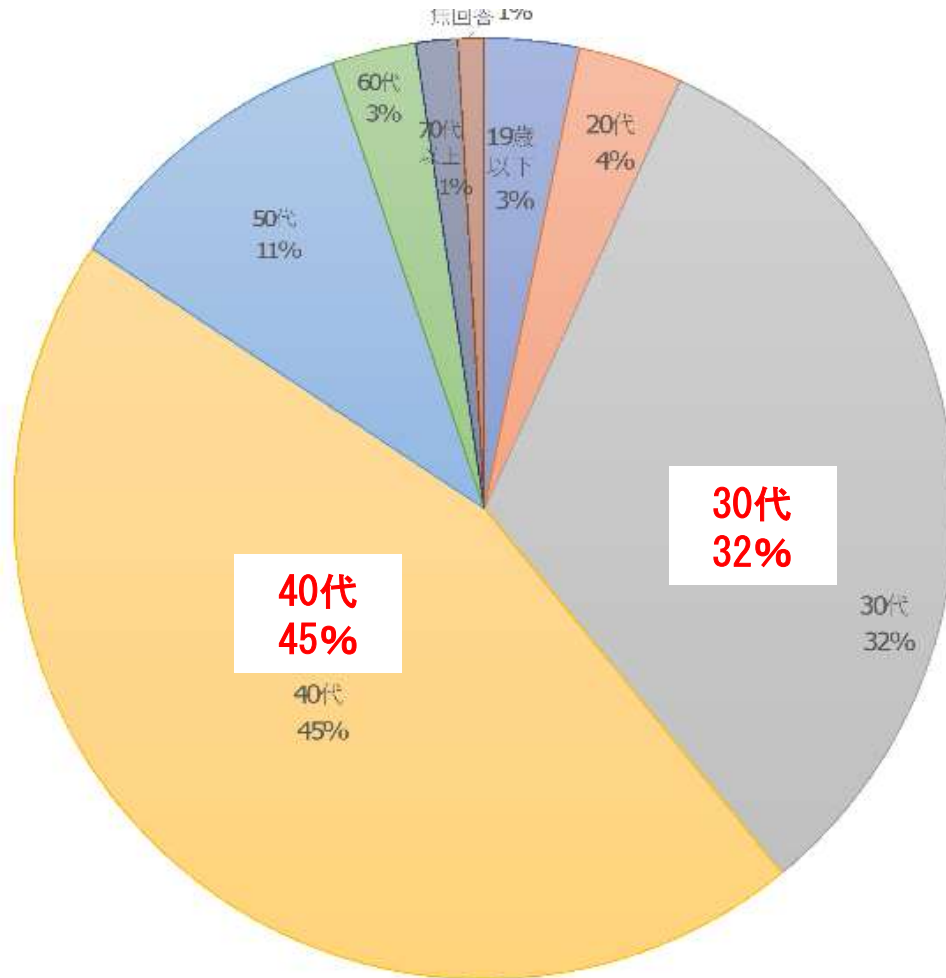


(2)まほろば健康パークの現状

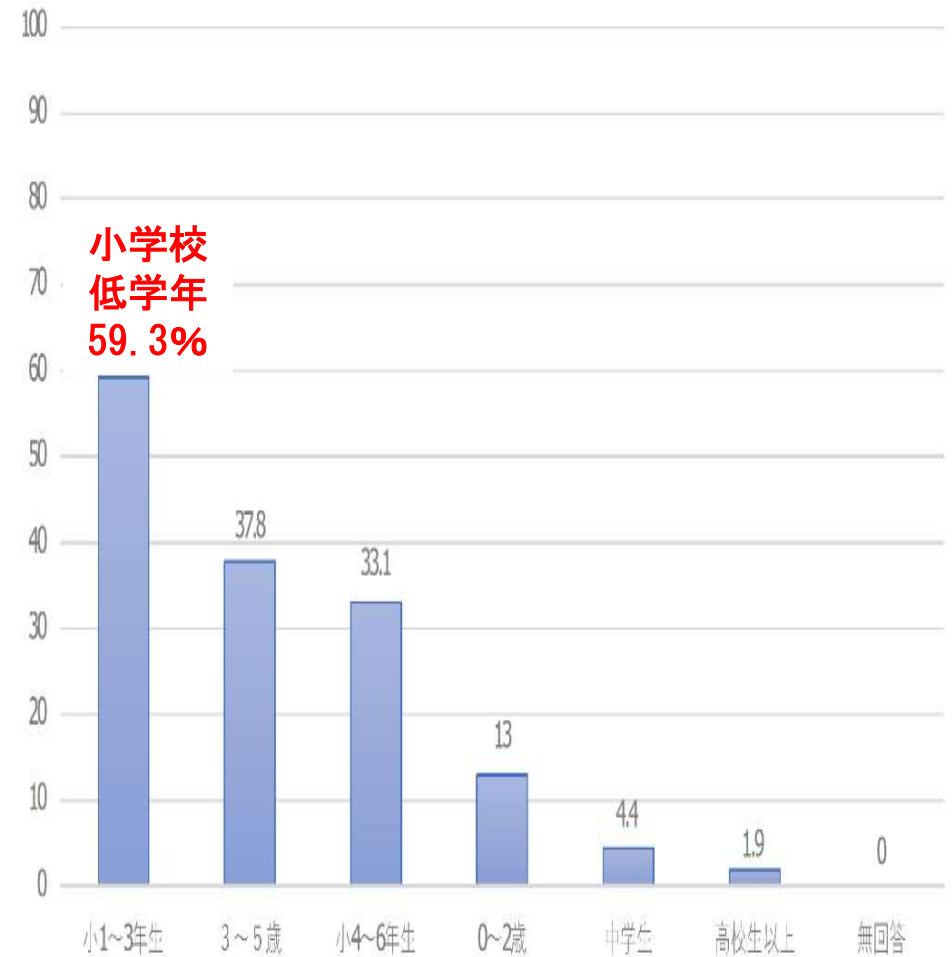
4)まほろば健康パークの利用者層

- ◆ 本公園の主要施設であるファミリープールの利用者は、子育て世代となる、30代から40代で78%を占めている。
- ◆ 子どもの年齢層は、小学校低学年が60%と最も多い。

ヒアリングアンケート調査結果



ヒアリングアンケート調査結果（同伴者の年齢層）



(2)まほろば健康パークの現状

5)障がい者団体へのヒアリング結果

◆ 障害者団体からの要望としては、インクルーシブ公園の5つの主要要素に対して、ハード面、ソフト面からの意見があげられている。

【まほろば健康パークの整備に係わる要望・意見】

【インクルーシブ公園の主要要素】

「誰でも同じ遊びを楽しめる」

「感覚を使って楽しめる」

「自分にあった遊びを楽しめる」

「落ち着ける場所がある」

「繋がりを楽しめる」

○健全者の兄弟が、思いっきり遊べるように、アスレチック等の遊具も整備してほしい。

○足の裏で感じることのできる、砂利道や砂の道があると良い。においを感じることが出来て触れることのできる、草木があると良い。

○障害をもつ子の親も休むことのできるようにしてほしい。

○障害のある本人や家族が気疲れしないよう、公園で交流しているうちに、自然と理解が深まり仲良くなれる、身体だけでなく「皆の心の健康を育む場」になって欲しい。

○障がいの有無や年齢、国籍に関係なく、誰でも遊べるインクルーシブ公園にする。コーディネーターやプレイワーカーなどを配置してコミュニケーションを促す土壌づくりをする。

○奈良では、行くところがなくて困っている。県内の行きやすい場所に、インクルーシブ公園が出来たら、各学校で行きたいとなって、取り合いになると思う。現状は大阪等へと出かけている。

○既存の公園は、バリアフリートイレが少なく、段差等の障害物も多く不便。車椅子でも使えるトイレは特に少ない。子供用の便器もない。

○自閉症・発達障害のある子どもが身体感覚を刺激でき、楽しく遊ぶことのできる場所や遊具があると良い。

(2)まほろば健康パークの現状

6)既存公園区域内にある施設と利用者数

◆ 既存の公園区域にはスイムピア奈良をはじめ、ファミリープールやテニスコート等が整備されており、合計で年間32万人が利用されている。



まほろば健康パーク・有料施設の利用者数(令和元年度)

	年間利用者数(人)	月平均(人/月)	割合(%)
スイムピア奈良	221,933	18,494	68.8
ファミリープール	60,133	5,011	18.6
テニスコート	28,618	2,385	8.9
ファミリー鉄道	8,922	744	2.8
軟式野球場	2,808	234	0.9
合計	322,414	26,905	100.0

資料:まほろば健康パーク機能強化基本計画



資料:まほろば健康パークホームページ¹⁵

(2)まほろば健康パークの現状

7) 拡張予定区域の現状

- ◆ 拡張予定区域には、現在、浄化センターの管理する自由広場がある。
- ◆ 自由広場内には、芝生広場、遊歩道、樹木、池がある。
- ◆ 自由広場は雨水調整池としての機能も有している。

池(冠水時)



遊歩道



樹木



芝生広場



(2)まほろば健康パークの現状

8) 上位計画におけるまほろば健康パークの位置づけ

- ◆ 「第2期奈良県スポーツ推進計画」では、「子どものスポーツ参加の推進」として、まほろば健康パークの整備を掲げている。

「第2期奈良県スポーツ推進計画」における子どもに関する施策

<課題認識(「計画策定の背景」より抜粋)>

- 子どもの体力の低下や、運動・スポーツをする子どもとしない子どもの二極化

<スポーツ推進の基本理念>

1. 全ての県民が生涯にわたり自発的かつ継続的にスポーツを楽しむことにより、心身の健康及び体力の向上を通じて健康な生活及び長寿を享受するよう推進します
2. 全ての県民が安全にかつ安心してスポーツに親しむことができるような環境を整備します
3. 地域の活性化に資するよう、世代間及び地域間の交流並びに国際交流を図ります
4. 県民に夢や希望を与えるアスリートが活躍できるよう支援します
5. **遊びを通じて子どもの豊かな心、身体及び思考力をはぐくむよう推進します**

柱①スポーツ参加の推進<体を動かす>

2 子どものスポーツの推進(抜粋)

(1) 幼児期のスポーツ(遊び・運動)の推進

- **まほろば健康パーク**をはじめ地域で幼児が運動できる環境の整備を進めます。

(4) 子どものスポーツ活動環境の充実

- 「**まほろば健康パーク**」は、成長段階に応じた遊び・スポーツ施設ゾーンの整備、家族や親子が気軽に集い、多世代で楽しめる空間の創出など、子どもが遊びや運動を通して成長できるよう機能の充実・強化を進めるとともに、地域のにぎわい・交流拠点、スポーツ・健康増進拠点として更なる活用を図っていきます。

(3) 現状整理と審議項目

現状整理

- ・ インクルーシブな遊び場や遊具の導入は、国内でも、導入される事例が増加してきているが、インクルーシブ公園として、どのような公園を目指すのかについて、統一された考えはなく、整備された事例も少ない。
- ・ 奈良県内での、まほろば健康パークへのアクセス性は優れており、県内各地の方に利用されている。
- ・ まほろば健康パークへの来園範囲内には、国営・県営都市公園、市・町管理の公園、民間施設等の類似施設が多数存在する。
- ・ まほろば健康パーク（ファミリープール）の利用者は、30代、40代の子育て世代が多く、小学校低学年の利用が最も多い。
- ・ 障害者団体へのヒアリングから、ハード・ソフト面で、様々な要望・意見がある。
- ・ 既存の公園施設利用者は、年間32万人（無料施設の利用者は含まず）と、多くの方に利用されている。
- ・ 公園拡張予定区域の一部の範囲は、現状、自由広場として整備されており、多くの方に利用されている。
- ・ 上位計画となる、「第2期奈良県スポーツ推進計画」では、「子どものスポーツ参加の推進」として、まほろば健康パークの機能充実・強化が掲げられている。

本日の審議項目

- ・ まほろば健康パークにおいて、どのようなインクルーシブを目指すのか
- ・ まほろば健康パークにおいてインクルーシブ機能を確保する際にどのような課題や留意点があるか